

新聞に親しむ ～大泉北小3年生の実践～

令和8年1月15日
練馬区立大泉北小学校
小野澤 瑞季

3年生は新聞に初めて触れる児童が多い実態を踏まえ、新聞に親しみながら新聞の構成や特徴を理解し、自分の考えを分かりやすく伝える力を育てることを主な目的として本実践を行った。教材として、4月から学年でストックしていた朝日小学生新聞を使用した。

①接続詞探し

3年生はこれまで国語科の学習において、「こまを楽しむ」「すがたを変える大豆」などの説明文教材を通して、接続詞について学習してきた。そこで導入として、自分の名前に含まれる文字探しを行った後、新聞記事の中から接続詞探しに取り組んだ。

活動を通して、文章の中には多くの接続詞が使われていることや、段落のはじめに接続詞が多く用いられていること、また接続詞によって文と文の関係や意味が変わることに気付くことができた。これまでに学習した内容を、実際の新聞記事を通して改めて確認することができた。

②スクラップ活動

「朝日小学生新聞」の「新聞スクラップワークシート」を活用し、分からない言葉、記事の要約、感想を書く活動を行った。これにより、自分の意見をもち、それを文章で表現する力を育てることをねらいとした。

はじめは、自分の興味・関心のある記事を選んでスクラップを行った。第二段階として、人物について書かれた記事を選び、「その人物の生き方の素敵だと思うところ」や「自分の生き方について」を感想として書く



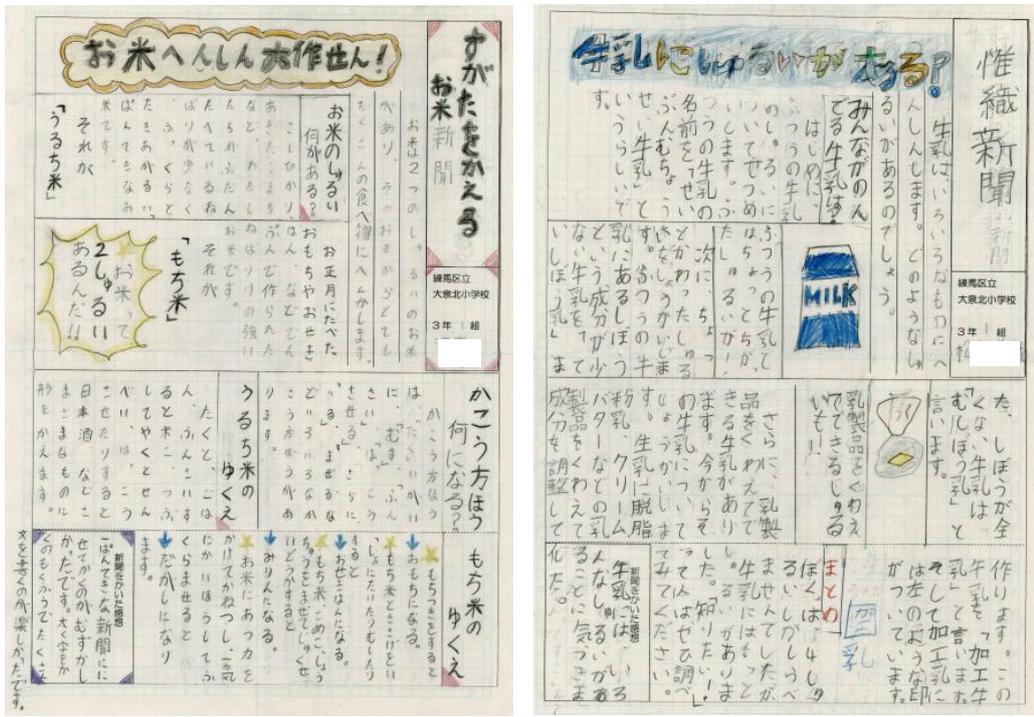
活動を行った。本校ではキャリア教育を校内研究のテーマとしているため、校内研究の一環として本活動を位置付け、低学年からのキャリア教育の基礎づくりを意識した取組とした。

完成したスクラップを互いに見合い、感想を伝え合う活動も行った。

③新聞づくり

これらの活動を通して、児童は新聞の構成や表現の工夫に目を向けるようになった。そこで、これまでの学びのまとめとして、新聞づくりの活動を位置付けた。スクラップ活動を通して、見出し、写真、文章の配置など、新聞の構成について理解し始める様子が見られた。国語科教材「すがたを変える大豆」の学習を応用し、「すがたを変える〇〇」をテーマに新聞づくりを行った。〇〇には、小麦、牛乳、お米など、児童がそれぞれ選んだ題材を用いた。

これまでに学んだ説明文の構成や新聞の特徴を意識しながら、読み手にとって分かりやすく伝える新聞を作成することができた。



- 見出しの工夫
- 接続詞
- イラスト（写真）
- 文章の書き方

成果と課題

- 児童の感心を引き出し、学習意欲を高めることができた。
- 情報や言葉の精選をする力が付いた。
- 読み手を意識した新聞作りに取り組むことができた。
- 関連する知識を広げることができ、視野を広げることができた。
- 情報の引用に対する意識の低さがある。

参考文献

- 朝日小学生新聞
<https://www.asagaku.com/>
- 朝日新聞 新聞スクラップワークシート
https://p.potaufeu.asahi.com/asagaku/pdf/scrap_worksheet.pdf
- いなげや 大泉学園店のチラシ
<https://tokubai.co.jp/%E3%81%84%E3%81%AA%E3%81%92%E3%82%84/8869>